

## 用語解説（五十音順）

### 【エコトーン】

移行帯や推移帯と訳される。河岸や湖沼の沿岸等、生物の生息環境が連続的に変化する場所を指し、多様な生物の生息場所となっているため重要視されている。

### 【越流水深<sup>えつりゅうすいしん</sup>】

堰や魚道隔壁を越流する流れの水深を指し、接近流速（堰の上流側の断面での平均流速で、流量を流水断面積で除したもの）が十分小さい断面の水面と堰頂の高低差をいう。

### 【海産魚<sup>かいさんぎょ</sup>】

海を主な生息域としている魚類。

### 【回遊魚<sup>かいゆうぎょ</sup>】

一生の間に海と淡水域の間を往復しているものを指す（厳密には通し回遊魚という）。さらに細かく分けると下記の3つに大別される。

・遡河回遊魚<sup>そ か かいゆうぎょ</sup>：淡水域で生まれ、しばらくそこで過ごしたのちに海に下って成長し、産卵のために再び淡水域に戻るもの。

・降河回遊魚<sup>こう か かいゆうぎょ</sup>：海で生まれ、淡水域に遡上して成長したのち、産卵のために再び海に下るもの。

・両側回遊魚<sup>りょうそく かいゆうぎょ</sup>：淡水域で生まれると直ちに海に下り、しばらくそこで過ごしたのちに、成長のために再び川に遡上し、そこで産卵するもの。

### 【外来生物<sup>がいらいせいぶつ</sup>】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」の定義によれば、人為により概ね明治元年以降に我国に入ってきた生物から、在来生物を捕食する、在来生物を競合により駆逐する、在来生物との交雑による遺伝的影響が生じるもの等を指す。

かせつぎょどう  
【仮設魚道】

恒久的な施設ではなく、取り外しが可能な魚道や簡易的に設置する魚道を指す。特定の魚種の遡上期間のみに設置する場合が多い。

かはりん  
【河畔林】

河川周辺の森林のうち、下流の氾濫原（洪水時に氾濫水に覆われる土地）にあるものを「河畔林」という。河畔林にはヤナギ類やハルニレ等が生育することが多い。河畔林は生態学的に重要な機能を持つ（水面を覆って日射を遮断するため水温が低く維持される及び葉や昆虫が河川に落ちて水生昆虫や魚類の餌となる等）。

きすいぎょ  
【汽水魚】

淡水と海水の混合している汽水域を主な生息地としている魚類。

ぎょどうりゅうそく  
【魚道流速】

魚道内の流水の速度を指す。一般的に魚道内は流れが複雑なため、測定する場所によって流速が異なるが、例えば、階段式魚道の場合では、魚の遡上の可否を決定するのは隔壁から落ち込む流れの最大流速のため、これを測定する。

けいりゅういき  
【渓流域】

本書では、河川のうち山地を刻むように流れる部分を指す。

こうか  
【降下】

海域あるいは下流へ降ること。

さくじば  
【索餌場】

索餌とは餌を求めることであり、索餌場とは餌を求める場所（餌を食べる場所）を指す。

さてあみ  
【サデ網】

柄がついていない網を指す。網を水中で固定し、上流部より足や手で魚を追い込むようにして捕獲する。

しぎよ  
【仔魚】

魚類の発生段階の一つで、ふ化直後から各鱗の鱗条がその種の固有の数に達するまでの間のもの。卵 仔魚 稚魚 若魚 未成魚 成魚となる。

じゅんこうそくど  
【巡航速度】

魚の遊泳速度の一種であり、長時間続けて出すことができる速度のうち最大の速度を巡行速度と呼ぶ。体長の2～3倍 / 秒程度とされている。

じゅんたんすいぎよ  
【純淡水魚】

コイ科の魚等のように、一生を河川や湖沼等の淡水域で生活する魚類。

すいしょうぶ  
【水衝部】

河道の湾曲や低水路の蛇行により、流水が河岸や堤防に直接あたる場所を指す。

せいいくば  
【成育場】

生物の幼期（魚では仔魚や稚魚）のものが育つ場所。

せいかつし  
【生活史】

生物が出生してから死亡するまでにたどる過程を指す。本書では、いつどのような発育段階を経て出生から死亡に至るか、また、移動や求める生息環境も含めて意味している。

せいぎよ  
【成魚】

魚類における発生段階の一つ。体の大きさも形態も十分に発達して、生殖能力を完全に備えている時期のもの。卵 仔魚 稚魚 若魚 未成魚 成魚となる。

せいそくかんきょう  
【生息環境】

本書では、生物の生活に必要とする環境、すなわち、水温、水質、流れ、地形（瀬・淵や河岸形状等）、水深、底質、植生、餌生物等を指し、これらの条件で形成される場も含めている。

せぎれ  
【瀬切れ】

本来、水が流れている場所の流れが途絶えること。

ぜつめつきくしゅ  
【絶滅危惧種】

環境省のレッドデータブックでは、絶滅の危機に瀕している種（絶滅危惧Ⅰ類）、絶滅の危機が増大している種（絶滅危惧Ⅱ類）に指定された生物種が絶滅のおそれのある種（絶滅危惧）とされているが、本書では環境省や都道府県発行のレッドデータブックに記載されている動植物種（準絶滅危惧種等も含む）全般を指す。

せ ふち  
【瀬・淵】

瀬は水深が浅く、流れが速く、白波が立つ所であり、淵に比べて生物生産力が高いため魚の餌場として利用されることが多い。一方、淵は水深が深く、流れが緩やかなため、魚の休み場等として利用される。このため、魚の生活には瀬と淵のいずれもが必要であり、両者が適切なバランスで分布するとともにそれらが連続して存在することが重要である。

せんこうりゅうそく  
【選好流速】

魚が好む流速帯を指し、種によって異なる。

ぜんちよう  
【全長】

体の前端から尾鰭をいっばいに伸ばしたときの後端までの直線距離。尾鰭のない魚種では体の後端までの長さ。

そじよう  
【遡上】

河川へあるいは上流へ遡ること。

<sup>たいちょう ひょうじゅんたいちょう</sup>  
【体長（標準体長）】

体の前端から脊椎骨末端までの直線距離。通常は尾鰭を持って左右に折り曲げたとときにできる折り目の位置までを指す。

<sup>たしぜんこうほう</sup>  
【多自然工法】

コンクリート等の無機素材に替えて植物及び土壌等、生物素材を中心とした材料を用い、より自然に近い状態を創出し維持する工法を指す。

<sup>たもあみ</sup>  
【夕モ網】

柄のついた網で、水際の植物の下にいる魚や、水中の石の下等にいる魚等を捕獲するのに適している。

<sup>ちぎょ</sup>  
【稚魚】

魚類における発生段階の一つ。形態はその種の特徴をほぼ備えているが、魚体各部の長さの相対比は変化の途中にあり、色彩、斑紋等も成魚とはまだ異なっているもの。卵 仔魚 稚魚 若魚 未成魚 成魚となる。

<sup>ていせいせい ていせいぎょ</sup>  
【底生性（底生魚）】

魚の遊泳形態の一つであり、水底あるいは水底に近い所に生活の基盤を置く生物を指す。遊泳性の生物よりも泳ぐ力が弱く、移動性が小さいものが多い。

<sup>どうてい</sup>  
【同定】

生物を図鑑や資料から見きわめて種名を決定すること。

<sup>とっしんそくど</sup>  
【突進速度】

魚の遊泳速度の一種であり、瞬間的にだけ出すことのできる最大の速度を突進速度と呼ぶ。体長の10倍/秒程度とされている。

はちゅうるい  
【爬虫類】

脊椎動物のうち、卵生で肺呼吸を行い、体が鱗や甲羅で覆われている変温動物を指す。カメ類、ヘビ類、トカゲ類等が該当する。

【ビオトープ】

本来、生物が互いにつながりを持ちながら生息している空間を指すが、開発事業等によって環境の損なわれた土地や都市内の空き地、校庭等に造成された生物の生息・生育環境空間を指す場合もある。

ひょうしきほうりゅう  
【標識放流】

主として生物の移動状況を把握するために、体に目印を付けて放し、追跡する調査手法を指す。標識には、鰭（ひれ）等の体の一部を切除する方法、体にタグを付ける手法、体に音波発信器を付ける手法等、様々な手法がある。

ふちゃくそうるい  
【付着藻類】

砂礫や岩石等の表面に付着して生活する藻類を指す。河川では、魚等の餌として重要であり、また、瀬では付着藻類の生産力が高いとされている。

ふっきそじょう  
【復帰遡上】

洪水等により下流へ流された魚が、元の生息域に戻ろうとする遡上行動を指す。

【ブッシュ】

草木や低木類による茂み。

【プランクトン】

浮遊生物（水域の生物のうち、水流に逆らって移動することができず、受動的に運ばれる行動生態をとる生物）のこと。ただし、全てのプランクトンの動きが完全に受動的というわけではなく、遊泳能力があるプランクトンも多い。大きく植物プランク

トンと動物プランクトンに分けられ、それぞれ生産者と一次消費者として水域生態系の底辺を支える重要な生物である。

みずうらぶ  
【水裏部】

流路の湾曲部の内側をいう。一般に水裏部では流速が遅く、土砂等が堆積しやすい。

【モニタリング】

通常は「監視」の意味で用いられるが、「自然環境」の関係で用いられる場合は、地域の自然環境の状況について継続的、あるいは定期的に調査を実施することを指す。

やつだ  
【谷津田】

谷地にある水気の多い湿田を指し、谷地田とも呼ばれる。谷津田は隣接する林地と併せて多様な植物、昆虫や小動物の生育、生息に適した環境のため、重要視されている。

ゆうえいけいたい  
【遊泳形態】

魚の泳ぎ方を指す。本書では、主に水中の上層～中層を生活域とし、頻繁に泳ぎ回るものを遊泳性（これには遊泳力の強いものが多い）、主に河床上を生活域とし、移動性が低いものを底生性（これには遊泳力の弱いものが多い）とした。

ゆうえいせい ゆうえいぎょ  
【遊泳性（遊泳魚）】

魚の遊泳形態の一つであり、主として水の表層～中層に生活の基盤を置く生物を指す。水中を泳ぎ回るため、底生性の生物よりも泳ぐ力が強く、移動性が大きいものが多い。

ゆうえいりょく  
【遊泳力】

泳ぐ力を指す。遊泳力が強い生物は、泳ぐ速度も速く強い流れに逆らうことができるため遡上能力は高い。遊泳能力が弱い生物は、速度も遅く、連続して流れに逆らえる時間も短いため、遡上時には流れを避ける場所が必要となる。

ゆうぎょ  
【遊漁】

レジャーを目的として釣り等の方法により行う魚介類の採捕を指す。

りょうせいりい  
【両生類】

脊椎動物のうち、卵生で幼生のときは鰓（えら）呼吸、親になると肺と皮膚で呼吸する変温動物を指す。カエル類、サンショウウオ類等が該当する。

【ワンド】

本書では、本川から離れたたまりも含め、河川敷にできた池状の入り江を指す。